

A portrait of Ikuyo Nakamichi, a Japanese actress, with long dark hair, wearing a shimmering gold dress and a dark shawl. She is looking slightly to the side with a soft expression.

仲道郁代
The Road to 2027
リサイタル・シリーズ

The
Ikuyo
Nakamichi Road
to
2027

2024年シーズン

仲道郁代 The Road to 2027

リサイタル・シリーズ

全プログラム



「劇場の世界」
2023年6月3日
サントリーホール
©N.Ikegami

春 のシリーズ

音楽を哲学的に探求するシリーズです。ベートーヴェンのピアノ・ソナタを核に据え、ベートーヴェン以前・以後の作品とともに各回のテーマに迫ります。

秋 のシリーズ

ピアノという楽器を味わい尽くすプログラムが並びます。より限定された“親密な”空間で、ピアノの表現の多彩さ、細やかさを味わっていただくシリーズです。

The Road to 2027リサイタル・シリーズは仲道郁代がベートーヴェン没後200周年と自身の演奏活動40周年が重なる2027年に向けて企画した、10年にわたるコンサートシリーズです。[春のシリーズ]と[秋のシリーズ]からなり、本人が自身の芸術性在这里に全て表れると語るとおり、一つ一つの公演には仲道の音楽哲学が凝縮されています。2027年とその先へと向かう仲道郁代の旅路を、ぜひ一緒にご覧ください。

パッションと理性

モーツァルト：
ピアノ・ソナタ K.310
ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第23番
「熱情」 Op.57
ブラームス：
ピアノ・ソナタ第3番 Op.5

2018

ショパン ～プレイエルの響き～

ショパン：
バラード第1番 Op.23、
バラード第2番 Op.38、
バラード第3番 Op.47、
バラード第4番 Op.52、
24の前奏曲 Op.28

夢は何処へ

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第27番 Op.90、
第13番 Op.27-1、
第14番「月光」 Op.27-2
シューベルト：
ピアノ・ソナタ第18番「幻想」
D894 Op.78

2024

シューベルトの 心の花

シューベルト：
4つの即興曲 D899 Op.90、
4つの即興曲 D935 Op.142

悲哀の力

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」 Op.13
ブラームス：8つのピアノ小品 Op.76
シューベルト：ピアノ・ソナタ
第19番 D958

2019

シューマンの夢

シューマン：
アレグロ Op.8、幻想小曲集
Op.12、予言の鳥 Op.82-7、
ピアノ・ソナタ第1番 Op.11

高雅な踊り

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ
第24番「テレゼ」 Op.78、
第25番 Op.79、第26番「告別」
Op.81a
リスト：「村の居酒屋での踊り」 S.514
ラヴェル：優雅で感傷的なワルツ
ショパン：ワルツ「告別」
Op.69-1、ワルツ Op.64-2、
ポロネーズ第6番「英雄」 Op.53

2025

ラヴェルの狂気

ラヴェル：鏡、水の戯れ、
夜のガスパール

音楽における 十字架

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第22番 Op.54、第21番
「ワルトシュタイン」 Op.53
ショパン：2つのノクターン Op.48
シューマン：
ピアノ・ソナタ第3番 Op.14

2020

ドビュッシーの 見たもの

ドビュッシー：前奏曲集 第1巻、映像
第1集、映像 第2集、喜びの鳥



「The Road to 2027」からの
初のライブ・レコーディング

生と死の揺らぎ

ショパン：
ピアノ・ソナタ第2番「葬送」 Op.35
ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第29番
「ハンマークラヴィーア」 Op.106

2027

2026

組曲～調和と心慮～

グリーグ：組曲「ホルベアの時代より」
Op.40
バッハ：パルティータ第1番
BWV825、第2番 BWV826、
イタリヤ協奏曲 BWV971
ラヴェル：クーブランの墓

2022

前奏曲～永遠への兆し～

ドビュッシー：前奏曲集 第2巻
ラフマニノフ：前奏曲集 Op.23より、
第2番・第5番・第7番
前奏曲集 Op.32より、第2番・第5番・
第8番・第10番・第11番・第12番
前奏曲「鐘」 Op.3-2

シューマン：クライスレリアーナ Op.16
ショパン：幻想曲 Op.49
スクリャーピン：12のエチュード
Op.8より第1番、第12番、
幻想曲 Op.28

知の泉

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第17番「テンペスト」
Op.31-2
ショパン：バラード第1番 Op.23
リスト：ダンテを読んで S.161-7
ムソルグスキー：
組曲「展覧会の絵」

2022

前奏曲～永遠への兆し～

ドビュッシー：前奏曲集 第2巻
ラフマニノフ：前奏曲集 Op.23より、
第2番・第5番・第7番
前奏曲集 Op.32より、第2番・第5番・
第8番・第10番・第11番・第12番
前奏曲「鐘」 Op.3-2

シューマン：クライスレリアーナ Op.16
ショパン：幻想曲 Op.49
スクリャーピン：12のエチュード
Op.8より第1番、第12番、
幻想曲 Op.28

劇場の世界

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ
第19番 Op.49-1、第20番
Op.49-2、第18番 Op.31-3
シューマン：パピヨン Op.2、
謝肉祭 Op.9

2023

ブラームスの想念

ブラームス：7つの幻想曲 Op.116、
3つの間奏曲 Op.117、6つの小品
Op.118、4つの小品 Op.119

思索するピアニスト NAKAMICHI

仲道郁代のベートーヴェン演奏が進化・深化し続けている。それはまさに音楽修辭学の実践だ。バロックの音形論とか情緒論といった厳格な理論ではなく、むしろ詩学でいうトポスの探索だ。どんな小さな音形や主題にも意味があり、特定の情念を喚起させるという仲道の演奏姿勢がもたらすベートーヴェン解釈が説得力をましている。シリーズ各回につけられたテーマそのものがすでに一つのトポスとなっている。

平野 昭（音楽学者・評論家）

「The Road to 2027」のプログラムを見て驚いた。毎日が考え抜かれた組み立てで、しかも仲道さん自身によってテーマが掲げられている。このテーマの下でこの曲が演奏されるのなら、哲学をやってきた私にも語ってみたいことが山ほどある！ 何しろベートーヴェンは、音で哲学しちやっった人なのだから。かくして毎年私ども慶應義塾大学文学部に仲道さんをお招きし、その年のテーマに合わせたお話を伺いながら一緒に議論させていただく至福の時をすごすこととなった。真摯にしてたゆまぬ探求心に裏打ちされてますます奥行きと深みを増す仲道さんのベートーヴェンは、毎回新たな発見に立ち満ちている。

斎藤慶典（哲学者・慶應義塾大学名誉教授）

「実体のあるものも、ないものも音に変換されてそこにあるかのように立ち昇る……」と仲道郁代さんはドビュッシーの本質を語っています。その演奏は、言葉通りに、作曲家が音に込めた微細な気配までも見事に映し出していました。音楽へのこの深い感応力が、ショパンやシューマンの魂の哀しみに、シューベルトやブラームスの真摯なひたむきさに、スクリャーピンの色彩にみちた神秘に、ラフマニノフの抒情の劇性に、ラヴェルの粋な佇まいの裏に隠された真実に……光を当ててくれることでしょう。

松橋麻利（音楽学者・ドビュッシー研究者）

仲道郁代の言葉

The Road to 2027のプログラムに寄せた仲道の言葉から、抜粋でご紹介します。

パッションと理性

相容れない二つの概念の狭間。そこには自らのあり方を、レゾナデートルを探る作曲家の姿が見えてくる。そんな問いを放ち、音の向こう側に聴こえてくる感覚に身を委ねる。

悲哀の力

悲しみと哀しみ。この二つの言葉が重なったとき、実は、密やかな、ささやかな抵抗の力を感じるのだ。悲哀の中から立ち上がる力というものが、そこには必ず潜んでいる。

ドビュッシーの見たもの

音は空気に溶けている。音の分子は空気の形を造りだす。音の分子の連なりは、光を生み、躍動する。現在、過去、未来も自在に越えさせてくれる。変化自在な具象と抽象。変化自在な現実と幻想。それらが音のプリズムになって香りたつ。その音のプリズムに溶けてみたい。

幻想曲の系譜 ——心が求めてやまぬもの

幻想曲——それは即興的な想念の連なり。求めてやまない想いを音に記してきた作曲家たちの系譜が、そこには見えてくる。ままならない想いに心がざわつき、それでも夢を見る、見ようとする。そこに共通するのは、生きることの煌めき。

幻想曲の模様 ——心のかげらの万華鏡

憧れ、希求する心は、壊れたかけらのようにさまざまな様相を持っている。それらが、幻想という即興的な想いの膨らみとなったとき、それぞれの作曲家へふり降り、心の傷を包み込んだ音とはどのようなものであったのか。ただただ、音に耳を傾けてみたいと思う。

知の泉

作曲家がその音楽でもって立ち昇らせる概念。その音が満ちていく様は、「知の泉」ともいえるものだ。音の渦の中に、生への定義が聴こえてくる。

前奏曲 ——永遠への兆し

プレリュードとは何のための前奏なのだろう。前奏曲が「生きている感覚」なのだとしたら、その次に来るものとは……。プログラムの最後に鳴り響く“鐘”の音のなかに私は、あなたは、何を聴くのだろう。

劇場の世界

人生はままならないものだ。だから劇になぞらえられる。そのドラマの中に私たちは、私たち自身をも見つけることができるかもしれない。そしてこのままならない人生が、愛しく思えてくるに違いない。

ブラームスの想念

流れゆく時間に 人生の重みを思い返す。そこに浮かぶのは 痛み。揺れ動く気持ちを包んで沈めてくれるのは 愛か許しか それとも神なのか。さまざまに浮かび上がる。ブラームスの想念の中に 私たちの想いが交錯する。

夢は何処へ

幸せを夢見る。けれどその夢は 探したい幸せはいったい何処にあるのだろうか。問い続け 果てしなく追いかける。幸せという夢。ベートーヴェンが シューベルトが 私たちに見せてくれる場所を 幸せを探してみたい。

2024年 春のシリーズ

夢は何処へ

曲目

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第27番 Op. 90
ピアノ・ソナタ第13番 Op. 27-1
ピアノ・ソナタ第14番「月光」Op. 27-2
シューベルト：
ピアノ・ソナタ第18番「幻想」D894 Op. 78



2024年5月11日(土)
アクトシティ浜松 中ホール
問合せ: 浜松市文化振興財団 053-451-1114

2024年5月19日(日)
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO
大ホール
問合せ: 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255

2024年5月25日(土)
宗次ホール
問合せ: 宗次ホールチケットセンター 052-265-1718

2024年6月2日(日)
サントリーホール
問合せ: ジャパン・アーツ びあ 0570-00-1212

2024年 秋のシリーズ

シューベルトの心の花

曲目

シューベルト：
4つの即興曲 D899 Op.90
4つの即興曲 D935 Op.142



2024年9月14日(土)
長岡リリックホール コンサートホール
問合せ: 長岡市芸術文化振興財団 0258-29-7715

2024年9月15日(日)
サントミューゼ 小ホール
問合せ: 上田市交流文化芸術センター 0268-27-2000

2024年10月5日(土)
アクトシティ浜松 中ホール
問合せ: 浜松市文化振興財団 053-451-1114

2024年10月12日(土)
宗次ホール
問合せ: 宗次ホールチケットセンター 052-265-1718

2024年10月27日(日)
東京文化会館 小ホール
問合せ: ジャパン・アーツ びあ 0570-00-1212

2025年 春のシリーズ 高雅な踊り

曲目

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第24番
「テレーゼ」Op.78、ピアノ・ソナタ第25番 Op.79、
ピアノ・ソナタ第26番「告别」Op.81a
リスト: 「村の居酒屋で の踊り」S.514
ラヴェル: 優雅で感傷的なワルツ
ショパン: ワルツ「告别」Op.69-1、ワルツ Op.64-2、
ポロネーズ第6番「英雄」Op.53

2025年5月10日(土) アクトシティ浜松 中ホール

2025年5月17日(土) 兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO 大ホール

2025年5月25日(日) 宗次ホール

2025年6月1日(日) サントリーホール

仲道郁代と ベートーヴェン

仲道郁代はこれまで6度にわたるベートーヴェン全曲チクルスを実施しており、自身の音楽の核にはつねにベートーヴェンがあると語っている。「The Road to 2027 リサイタル・シリーズ」の「春のシリーズ」のほか、2027年シーズンを目指して横浜みなとみらいホール、京都コンサートホールでのソナタの全曲演奏会や、サラマンカホールでの室内楽とソロを組み合わせたコンサートシリーズを実施。またピアノを含む室内楽全曲を網羅する意欲的なシリーズもヤマハホールで開催している。近年はオリジナル楽器での研究の成果も際立っており、新しいベートーヴェン像が確立されている。2022年12月にはブダペストのリスト音楽院にてハンガリー国立フィルとの共演でベートーヴェンの協奏曲「皇帝」を披露(写真)。陰影を伴う新しい「皇帝」像が打ち出され話題となった。



©MNF photo Attila Nagy

仲道郁代 ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ全曲演奏会

横浜みなとみらいホール

2024年11月24日(日)
第5回〈熱情～パッションと絶望の間〉
2025年4月20日(日)
第6回〈告別～英雄的なるもの〉
問合せ：神奈川芸術協会 045-453-5080

京都コンサートホール 小ホール

2024年6月22日(土) 第3回〈夢を見る〉
2025年6月28日(土) 第4回〈英雄的とは何か〉
問合せ：otonowa 075-252-8255

仲道郁代 ベートーヴェン
“ピアノ室内楽”全曲演奏会

ヤマハホール

2024年6月30日(日) Vol. 4
2024年12月14日(土) Vol. 5
問合せ：ヤマハ銀座店 インフォメーション
03-3572-3171

仲道郁代 ベートーヴェンの宇宙

サラマンカホール

2024年12月7日(土) 第3回「見出した新しい道」
問合せ：サラマンカホールチケットセンター
058-277-1110

仲道郁代 OFFICIAL YOUTUBE CHANNEL



The Road to 2027 の関連動画

2020年 秋のシリーズ
「ドビュッシーの見たもの」



2022年 春のシリーズ
「知の泉」(アナリーゼ)



2023年 春のシリーズ
「劇場の世界」(アナリーゼ)



2021年 春のシリーズ
「幻想曲の系譜～心が求めてやまぬもの」



2022年 春のシリーズ
「知の泉」ムソルグスキー《展覧会の絵》より《キエフの大きな門》



2023年 春のシリーズ
「劇場の世界」(対談)



2021年 秋のシリーズ
「幻想曲の模様～心のかげらの万華鏡」(対談)



2022年 秋のシリーズ
「前奏曲～永遠への兆し」(鼎談)



2023年 秋のシリーズ
「ブラームスの想念」(対談)



仲道郁代 PROFILE

日本で最も求められ続けているピアニストの一人。音楽から神聖さ、親密さを見出してパーソナルなピアノの音として立ち上らせる独特の演奏スタイルは多くの共感を得ている。仲道はデビュー以来35年以上にわたって常に高い人気を保ち続けている稀有な存在である。日本では全国各地で彼女のコンサートを望む声を受け続け、延べ2500回を超えるリサイタルを実施してきた。十代の頃にアメリカ・ミシガン州に住み、またミュンヘンで学んだことが彼女の音楽観に深い影響を与

えているが、細やかさや繊細さ、他者との深い共感性を同時に持ち合わせているところが、彼女のピアノの魅力の一つとなっている。令和3年度文化庁長官表彰、ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、メンデルスゾーン・コンクール第1位メンデルスゾーン賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール第5位ほか、受賞歴多数。一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学 特任教授。

公式ウェブサイト



メールマガジン登録

